

花ちゃん、オー君、モンタ博士のわくわくドキドキ冒険4

国立市立国立第七小学校

平成28年6月30日 NO.29 (329)

3年生Iくん「みんな！見て見て！

カブトムシだよ。」

モンタ博士「よかったね。すごいね。この

カブトムシは、学校の落ち葉

置き場で見つけた幼虫を

ずっと育ててきたもの

なんだよ。」

花ちゃん「これは、校長室前ですね。

先週はモグラがいたし、

今週はアオダイショウが

いたり、カブトがいたり

いろいろな生き物がいっぱい、わくわくドキドキですね。」

オー君「そうだね。モグラ・・・アオダイショウ・・・この次は何が出てくるのかな。

何だろう。恐竜なら、ティラノザウルスがいいな。でもちょっと大きいか。」

花ちゃん「恐竜なんて出てくるわけないでしょ。ところで、モンタ博士。上のカブト

ムシの写真は何か変ですね。」

モンタ博士「何がどう変なのかな。」

花ちゃん「ふつうのカブトムシとちがって、写真右のカブトムシの色が変ですね。」

オー君「あー。そういうことか。このカブトムシはね、さなぎから出てきたばかりな

んだよ。だから、こんな色をしているんだ。それに、この茶色の部分をさわってごらんよ。おもしろいよ。」

花ちゃん「あ！かたくない。ふにゃふにゃだ。やわらかいよ。」

モンタ博士「そのとおりだね。このカブトムシは、どのくらいでかたい羽になるだろう。

モンタ博士も知らないよ。観察したらおもしろそうだ。みんなで見てみよう。」

見て見て！
ぼくの右手を
見て下さい。
カブトだよ！



花ちゃん 「はい。わかりました。それから、写真左の物は何ですか。見たことないわ。」

オー君 「そういえば、ぼくも見たことないな。ひょっとしてカブトムシのさなぎの抜けがらかな。」

モンタ博士 「ピンポン。そのとおり。さなぎの抜けがらだね。なかなか見ることができないものだよ。茶色の体をしたカブトムシや抜けがらなど、飼って観察していると、いろいろなことがわかっておもしろいね。」

オー君 「よーし。いろいろな虫をかって観察することにしよう。」

花ちゃん 「あれあれ？右の写真はなあに。」

モンタ博士 「これは、3年生の椿野くんが持ってきて見せてくれたものだ。はじめは何かなと思ったけど、よく見るとキノコなんだ。」



オー君 「ドングリから出ているキノコなんて初めて見るぞ。」

モンタ博士 「このドングリは、たぶん、マテバシイのドングリにまちがいないね。それにしてもよく見つけたね。気づいたね。感心・感心だね。」

花ちゃん 「このキノコは何という名前ですか。」

モンタ博士 「いろいろなキノコの図鑑で調べたら、スエヒロタケというキノコらしいよ。」

オー君 「へえー。聞いたことない名前だな。」

モンタ博士 「そうだね。わからないことがいっぱいいいんだよ。だからおもしろいのさ。」

花ちゃん 「自然の世界は、おどろきでいっぱいですね。」

オー君 「自然の世界は、いろいろな発見でいっぱいですね。」

モンタ博士 「国立七小のまわりには、いろいろな生き物でいっぱいだ。」

2年生女子 「モンタ博士！校庭のアサガオが咲いていました。」

モンタ博士 「ほほー。よく気がついてくれたね。うれしいね。このアサガオは、フッタ博士といっしょに、エアコンの室外機のフェンスの所に置いたのさ。みんなに『夏』を感じてもらえればいいなあという気持ちで置いたのさ。さあ、みんなで夏を発見しにいこう。ひまわり色の太陽がもくもく入道雲をお供に、もうすぐそこまで来ているよ。」